

Title	半導体産業における競争戦略
Sub Title	
Author	小野寺寛(Onodera, Hiroshi) 青井倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1990
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1990年度経営学 第748号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0748

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	小野寺 寛 (日本電気株式会社)	主査	青井 倫一
		副査	柳原 一夫 矢作 恒雄
所属	青井 倫一 研究室		

半 導 体 産 業 に お け る 競 争 戦 略

本論文では、日本の半導体産業における競争戦略を分析することを目的としている。これまでの半導体産業に関する議論では、産業の特性から想定させる定性的な戦略の提言を行っているものがほとんどで、企業間の収益性の差異を実証的に分析した例はほとんど見られなかった。そこで本論文では、まず産業内において、その年度の設備投資の効率性を評価するために使用されている指標である”設備投資効率”に注目し、この指標が各企業間の収益性を比較するデータとなり得ることを提示した。そしてこの設備投資効率を決定する要因は、企業の戦略と市場の環境であるという仮説を立てて、公表データに基づいて半導体主要メーカー上位9社について実証分析を行った。

その結果

- ① 半導体産業の収益性は、市場環境によって大きく変動する。
- ② 上位9社間では規模の経済性の存在は実証されない。
- ③ 最先端製品の量産開始時期が企業の収益性に重要な影響を及ぼす。

という結論が得られた。

この検証によって、これまで半導体産業における競争戦略として定性的に言われてきたことのうち、規模の経済性については疑問があることが実証され、また新世代製品の開発速度が企業の競争戦略にとって重要であることが実証された。